

平成28年5月11日

各 位

会 社 名 東邦ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 濱田 矩男
(コード番号 8129 東証第一部)
問 合 せ 先 経 営 企 画 本 部 副 本 部 長
兼 広 報 ・ I R 室 長 河 村 真
(電 話 03-6838-2803)

平成28年3月期連結業績について

東邦ホールディングス株式会社は、本日、平成28年3月期決算を発表しましたのでお知らせいたします。

当連結会計年度における医療用医薬品市場は、ジェネリック医薬品の使用促進など医療費抑制策の浸透による影響があったものの、予想を大幅に上回るC型肝炎治療薬が特に第3四半期以降著しく伸長し、希少疾病用医薬品等の新薬の寄与もあり、前年に比べて大きく成長しました。

一方で、人口の高齢化が進展する中、将来に向けた安定的で持続可能な医療保険制度の運営確保に加え、効率的で質の高い医療の実現を目指した地域包括ケアシステムの確立のための施策が推進され、今後の市場環境の変化が予測されております。

このような状況のもと、当グループは医薬品卸売と調剤薬局の二つの事業を核とする医療、健康、介護分野に携わる流通企業集団として、今後の急速な環境変化に対応するために、患者さまや医療機関が抱える問題を解決するための様々な顧客支援システムの開発・提案に取り組み、地域包括ケアシステムの構築に貢献し、幅広い分野で存在価値を発揮する付加価値サービス型ビジネスモデルへの変革を推進いたしました。

医薬品卸売事業においては、適正利益の確保を図るとともに、物流センターとコールセンターの機能を強化し、受注から配送にわたる全てのオペレーションコストの低減と業務効率を図る「営業と物流の一体改革」を一層推進し、間接部門を含めた要員の適正化を推進することで、経費削減を図りました。

調剤薬局事業では、地域医療に密着した店舗運営において、調剤報酬の改定に対応した高付加価値化による収益性改善を図るとともに、店舗業務の標準化や本部への業務集約による経費削減策に取り組みました。

その結果、当連結会計年度の業績は、C型肝炎治療薬や希少疾病用医薬品等の新薬の寄与と、独自の顧客支援システム、特に自動音声認識薬歴作成支援システム「ENIFvoice SP」、「初診受付サービス」の契約件数の拡大が業績に貢献し、他のサービスも安定的に寄与したことに加え、販売管理費の削減効果もあり、次頁の表の通り、大幅な増収、増益となりました。

なお、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の全項目において、過去最高となっております。

1. 平成 28 年 3 月期業績(連結)

単位：百万円（百万円未満切り捨て）

連結	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益
平成 28 年 3 月期	1,308,474	28,618	34,493	21,771
通期業績予想	1,300,000	28,000	34,000	21,000
通期業績予想比(%)	100.7	102.2	101.5	103.7
前期比(%)	112.6	285.7	216.9	160.8

2. 平成 29 年 3 月期業績予想(連結)

(%表示は、通期対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第 2 四半期 (累計)	641,000	6.4	9,500	55.5	12,200	33.1	7,700	80.0	112.22
通期	1,285,000	△1.8	18,700	△34.7	24,000	△30.4	14,900	△31.6	217.16

以 上